



3 レポーターからの画像鑑定依頼

このページでは、みなさんの生き物調査の参考になるよう、令和4年度中にレポーターの方から質問（写真つき）や現物の提供があった生き物と、その鑑定結果について掲載しています。今年もたくさんのご質問をいただきました。レポーターの皆さん、ご回答いただいた検討委員の皆さん、ありがとうございました。

【鳥】

<p>カワラヒワ</p> <p>飛び時に羽の鮮やかな黄色が特徴。河原や農耕地、住宅街でも比較的頻繁に観察できる。</p> 	<p>ムクドリの雨覆羽 （夏羽 ※換羽・羽かも）</p> <p>羽の先端の丸みや根元が白いことから、雨覆羽と見られる。</p> 
---	--

【植物】

<p>名称不明</p> <p>この写真で見える限りキノコのようなのですが、名前が判りません。</p> 	<p>ツルマメ</p> <p>夏～秋頃に紫色の小さな花が咲く。枝豆よりも小さな豆ができるが、小さくて硬く、食べることはできない。</p> 
<p>ヤブツルアズキ</p> <p>つる性の一年草。日当たりのよい場所に生え、周りの樹木に絡みついて伸びていく。夏～秋頃に黄色い小さな花が咲く。</p> 	<p>ハタケチャダイゴケ</p> <p>キノコ的一种。梅雨時～秋頃に堆肥や古畳、もみがらの上などに群生する。雨粒が落下した衝撃で黒い碁石のような胞子の塊が拡散することで繁殖していく。</p> 

こんちゅう
【昆虫】

ヒメアカタテハ

25～33mm。
幼虫はヨモギ類、ハ
ハコグサ、ゴボウ、
カラムシなどを食べ
る。成虫は花によく集まる。足利市では
普通に見られる。



ミヤマセセリ

14～22mm。
早春に明るい林に
見られる。幼虫はコ
ナラ、クヌギ、ミズナ
ラなどを食べる。足利
市では普通に見られる。



アサギマダラ

43～65m。
足利市では
おもに秋に渡
ってきたもの
が見られる。幼虫はキジョラン、イケマな
どを食べる。唐沢山や益子町の高館山には
キジョランがあり越冬中の幼虫を見ることが
できる。



オオキンカメムシ

19～26mm。夏に
アブラギリで繁殖す
る。6月頃から移動
分散がはじまり、今回
の記録は7月である
ことから移動分散したものと思われる。
栃木県2例目の記録であることから発見者
と共に栃木県の虫の会の会報に報告した。



キリウジガガンボ

ハネを広げた幅20
～22mm。幼虫は
土中の腐食物やイ
ネ、ムギなどの根を
食べ、害虫として有名。ガガンボの仲間は
似たものが多い。



ツバメシジミ

9～19mm。幼虫は
シロツメクサやゲンゲ
を食べる。日当りの良
い草むらに住む。
足利市では良く見ら
れる。



ミナミホソサシガメ

14～18mm。草の根際にいる。ストローのような口で虫の体液
を吸う。足利市には広く生息しているものと思われる。良く似たホ
ソサシガメの可能性もある。



クロスジヘビトンボ(幼虫)

正確にはクロスジヘビトンボには2種いるが幼虫での区別は難しい。幼虫は水の中に住みほかの小さな虫を食べる。成虫は50mm前後。名前は成虫の頭の形にちなむ。足利市には数種のヘビトンボの仲間がいるものと思われるが調べられていない。



ハラビロカマキリ

45~71mm。林の中やへりで見られる。上の写真はオスでメスより小さく細い。足利市ではやや普通に見られる。



ヤブキリの幼虫

成虫は35~45mm。林のへりなどにいてオスは鳴く。成虫は7月頃から見られる。足利市には普通にいますが、その気にならないと見かける機会は少ない。



ササキリ

12~17mm。うす暗い林のへりにいて、良く鳴いている。足利市では林のへりで鳴き声を普通に聞くことができる。



クルマバッタ

26~56mm。自然状態の良い森の近くの草むらにいます。羽ばたくと見られる後ろバネの模様から名前がついた。足利市ではそれほど多くないが、気をつけて観察すれば見られる機会は多くなる。



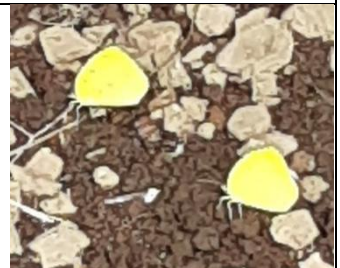
クロメンガタスズメ(幼虫)

成虫は45~55mm。幼虫はゴマやナスなどを食べる。メンガタスズメの幼虫の可能性もあると答えました。成虫の胸の部分の顔に似ていることからこの名がついた。温暖化による分布北上昆虫の一つで足利市には普通にいると思う。



キタキチョウ

18~27mm。幼虫はハギ類やネムノキを食べる。最も多いチョウの一つ。足利市には多い。写真は水を吸っているものと思われる。



サトクダマキモドキ

23～31mm。
人里に良く見られ灯りによく集まる。林のへりや森の木の



上に住む。足利市では少ないが、見る機会はない。ヤマクダマキモドキも足利市にはいる。

ヒメウラナミジャノメ

18～24mm。
幼虫はイネやカヤツリグサの仲間を食べる。足利市では最も多いチョウの一つ。



ヒナバッタ

23～30mm。林の縁や草原に生息する。イネ科植物などを食べる。雄はうしろ肢を翅にこすり合わせて発音する。足利市では普通に見られる。ヒロバネヒナバッタの可能性もある。



ベッコウハゴロモ

6～8mm
日当たりの良い雑木林や、開けた草むらなどに住む。クズやヤマノイモ、ウツギといった植物の茎に針のようなくちを刺して、汁を吸う。足利市には多い。



ホソヘリカメムシ(幼虫)

成虫の大きさ14～16mm。
農業害虫として有名。河原などの草地に住み足利市にも多い。幼虫はアリに似ている。



クロバネツリアブ

11～19mm。
河原などに住む。幼虫は昆虫の幼虫に寄生するようである。足利市ではあまり見かけない。



ヨモギハムシ

7～10mm。成虫・幼虫ともにヨモギを食べる。道ばたや空き地、河原などにいる。青色のものもいてこちらのほうが足利市には多い。足利市にも普通にいるが見掛ける機会は意外と少ない。地面を這っているのを見かけることが多い。



スズバチ?の巣

通称ドロバチの巣。巣を作ったのはキゴシジガバチないしはアメリカジガバチ、スズバチの3種の可能性がある。キゴシジガバチとアメリカジガバチの巣は塀などに作り、クモを狩って幼虫の餌とする。最近では外来種のアメリカジガバチが優勢のようであるが、足利市の分布状況は調べていない。スズバチはシャクトリムシなどを狩り、こちらにも壁などに巣を作る。写真はヤツデの茎で。壁以外にもスズバチは巣を作るようなのでどちらかと言えばスズバチかなと思われる。



ハラグロオオテントウ

11~12mm。河原、山のへり、公園などにいる。クワにいるクワキジラミを食べる。温暖化で急速に分布北上中の昆虫。2021年（令和3年）に栃木県で初めて足利市で見つかり、今回の鑑定依頼されたものと共に、栃木県の虫の会の会報に報告した。



【水辺の生き物】

ニホンアマガエル

普通は緑色のものが多いが、周囲の色に体の色を変えるためこのようなものもある。（調査対象種）



【その他】

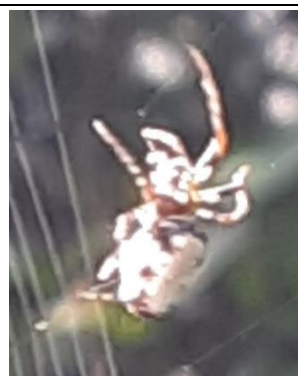
アズチグモ

2~9mm。花の上でえものを待ちぶせる。体の色やもようはさまざま。足利市では普通にみられるようである。



ビジョオニグモ

5~10mm。画像が不鮮明でわかりづらく、別の種の可能性もある。林や公園にて足利市では普通にみられるようである。



ドヨウオニグモ

4～10mm。草原や河原、田んぼなどでごく普通に見られ、足利市にも多い。画像が不鮮明で別の種の可能性もある。



ハナグモ

3～7mm。花の上でえものを待ちぶせる。体の色や模様はさまざま。画像が不鮮明でわかりずらく、別の種の可能性もある。草地にいて足利市ではごく普通に見られる。



▼ヒラタクワガタ
(レポーター提供)



▲野ウサギ(レポーター提供)

令和4(2022)年度 環境に関する大きなできごと

約442年ぶりに
皆既月食と天王星食が同時発生

11月8日夜に、月が地球の影に隠れる皆既月食が観測されました。同時に月食中に天王星が月に隠れる天王星食も発生し、注目を集めました。次回、皆既月食中の惑星食が観測できるのは322年後です。

軽自動車の電気自動車が
日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞

2022-2023 日本カー・オブ・ザ・イヤーに日産サクラ・三菱ekクロスEVが選ばれました。日本独自の軽自動車規格を採用し、現実的な車両価格でバッテリーEVを所有するハードルを下げ、日本でのバッテリーEV普及の可能性を高めたことが受賞理由です。